植物防疫情報第６号

令和５年８月２４日
岡山県植物防疫協会
岡山県病害虫防除所

モモせん孔細菌病の秋季防除を徹底しましょう

本年発生した圃場では来年の発生が多くなる恐れがあります。本病は単独の対策のみでは十分な防除効果が期待できず、防除を体系的に行う必要があります。このため、秋季からの防除を徹底して、次作に備えましょう。

１．発生状況

岡山県病害虫防除所が８月３日に行った巡回調査によると、モモせん孔細菌病の葉での発生圃場率は42.9%で、過去10年の平年(43.2%)値と比較して平年並ではあるものの、発生の少なかった過去２年に比べ高くなっています（図１）。

２．防除対策及び防除上の参考事項

（１）本年の発生要因として春先の多雨の影響により、病原菌の飛散が助長されたことが考えられます。

（２）本病の発生圃場において、新梢の枝病斑（夏型枝病斑、図２）から秋期に飛散した病原菌は、当年枝の皮目や落葉痕などで越冬し、翌年４月以降に次作の重要な伝染源となる春型枝病斑を形成します。このため、**夏型枝病斑を除去**し、圃場外に持ち出し埋設するなど適切に処分することが極めて重要です。

（３）越冬伝染源量を下げるため、**９～10月の秋季防除**を徹底しましょう。９月上～中旬にバリダシン液剤５の500倍（収穫７日前まで、４回以内）またはスターナ水和剤1,000倍（収穫７日前まで、３回以内）を散布しましょう。また、併せて９月下旬と10月上旬にＩＣボルドー４１２（30～50倍）を２回散布すると、さらに越冬伝染源量の低下に有効です。

（４）風当たりの強い圃場では薬剤だけでは防除効果が得にくいため、防風ネット等の**防風対策**を徹底しましょう。

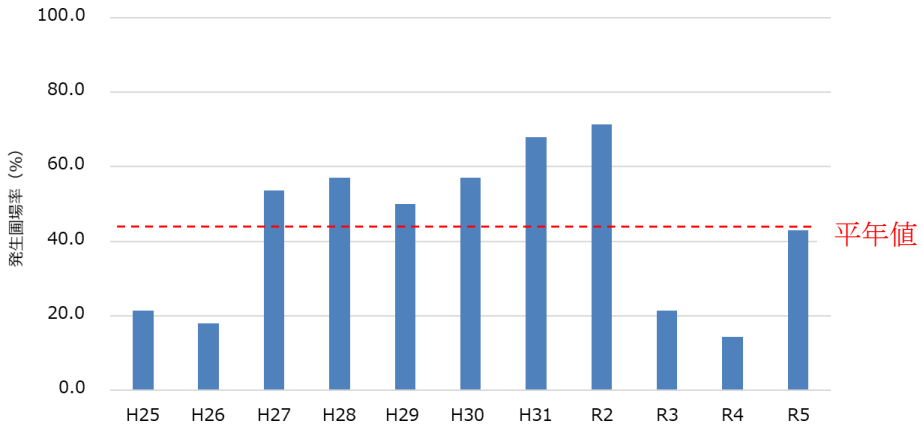

図１　県南部の巡回地点28圃場の８月上旬の発生圃場率
（岡山県病害虫防除所による巡回調査データ）
（県内７地点 28 圃場）

図２　夏型枝病斑（新梢）

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を遵守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。収穫後の農薬使用は、次作（令和６年作）での回数のカウントとなりますので御注意ください。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/　です。